

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：12611

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26590142

研究課題名(和文)三世代の親子関係と世代間で交換される社会的資源及び感情

研究課題名(英文) A study of parent-child relationship in three generations : Their social resources and their feelings exchanged among them.

研究代表者

高濱 裕子 (Takahama, Yuko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：10248734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間全体を通して、27名の祖父母より面接調査に協力が得られた。祖父母の居住地別人数の内訳は、関東圏16名、関西圏11名であった。また孫の年齢別人数の内訳は、歩行開始期13名、思春期14名であった。収集された面接データの一部が分析され、1件のポスター発表(国際学会)と2編の論文にまとめられた。歩行開始期の孫を持つ祖父母世代は、彼らの子ども世代が仕事と子育ての両立に苦悩していたことから、子育ての役割を担いながら人生の先輩としてサポートを継続していた。一方思春期の孫を持つ祖父母世代は、戦争体験を有する人が少なくなかった。彼らは年齢的にも人生の最終段階にはいり、懸命に世代継承性と対峙していた。

研究成果の概要(英文)：Through the whole study period, 27 grandparents participated in the interview survey. As for the breakdown of the number according to the residential area of target people, 16 people were in Kanto area and 11 people were in Kansai area. In addition, as for the breakdown of the age-specific number of grandchildren, 13 people had toddlers and 14 people had adolescents. A part of the collected interview data was analyzed and was organized into two articles. Grandmothers continued support as a senior of the lives while carrying a role of the child care, because their children were agonized for coexistence of work and the child care as for grandparents who had a grandchild of toddlerhood. On the other hand, as for grandparents who had an adolescent, there were a lot of people having wartime experience. They began the final stage of their life in terms of age and confronted generativity assiduously.

研究分野：教育心理学

キーワード：世代性 三世代 社会的資源 感情

### 1. 研究開始当初の背景

我が国における親子関係の研究は、特定の時期(例えば子どもの自立が発達課題となる歩行開始期や思春期)における親と子の2者関係に焦点化する形で検討されてきた(氏家・高濱,2011;高濱・渡辺・坂上・高辻・野澤,2008)。

しかし生涯発達の親子関係をみると、それまでの子どもは長じて親になり、それと同時に親は祖父母になる。このような着眼点をもった研究は、これまで行われていなかった。Erikson (1989) による世代性(次世代を確立させ導くことへの関心)の研究や、少子化対策・子育て支援などの知見を援用することで、家族規範意識(水上・赤澤・小林,2009)をも組み込んだ生涯発達心理学的な親子関係の研究が可能になると予想される。

祖父母世代と親世代の関係については、介護問題や経済(年金)問題がクローズアップされ、最近では育児支援の観点からも検討されている。自治体の祖父母のための孫育て講座の盛況ぶりにみられるように、新たな世代の新たな子育ての仕方を学ぼうとする祖父母世代も少なくない(三輪・内田・木澤,2006)。マスコミに登場する祖父母世代が特殊な階層の人々であるか否かは、多くの祖父母世代の意見を参照して検討する必要がある。

また、祖父母と孫の関係についての研究(田畑・星野・佐藤・坪井・橋本・遠藤,1996)に示されるように、祖父母に該当する年代と孫に該当する世代の関係は取りあげられてきた。しかし血縁関係のある祖父母と孫世代の関係、あるいは祖父母と親の関係の検討は、方法論的な難しさも伴って、それほど行われてはいない(丸島,2009)。

### 2. 研究の目的

生涯発達の観点から親子関係を俯瞰すると、従来の研究では文字通り親子二世代の関係のみを切り取って検討対象としてきた。しかし長寿社会と高齢者人口の増加により、現代の親子関係は変容の家庭にあると考えられる。

本研究では次の3つの目的を設定する。

第1に、親、子ども、祖父母の三世代の間を包括的に検討することである。

第2に、同居は減少傾向にあるが近居が増加傾向にあることから、世代性に関する意識の変化を探ることである。

第3に、世代間の交流頻度だけでなく、交流のツールとそこで交換される社会的資源の内容を検討することである。

高齢者のサクセスフルエイジングの概念を超えて、現代の三世代の適応について心理学的に検討することが目的である。

### 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するための重要なポイントは、既に実施した質問紙調査の協力者に面接調査を依頼できることにある。対象者の意思確認を経た後に、収集した親世代データ(子どもが歩行開始期及び思春期)、その親の紹介によって参加した祖父母世代データ、中学校で収集した子ども(孫)世代データを基礎データとして、面接調査を実施する。

方法論として面接法を採用する理由は、質問紙調査では測定の難しい世代意識の変容プロセスを検討しようとするからである。面接調査は基本的に対象者の自宅において、対面で個別に実施するため、方法論に関する知識があり、かつ技法に習熟した研究者あるいは大学院生が行うこととする。

### 4. 研究成果

面接調査に協力した祖父母は、27名であった。祖父母の居住地別人数の内訳は、関東圏16名、関西圏11名であった。また孫の年齢別人数の内訳は、歩行開始期13名、思春期14名であった。

対象者の多くは、これまでの人生において紆余曲折を経てはいても、現在は子ども世代や孫世代と親密な関係を維持し、経済的にも安定していた。また、歩行開始期の孫をもつ祖父母と思春期の孫を持つ祖父母とは約10歳の年齢差があったが、その間に健康状態の悪化が顕著であった。

研究目的に対応した研究成果は次の通りである。

第1に、祖父母世代は孫の育児に参加しながら、親世代には実現できなかった発達課題を再度解決しようとしている。

第2に、祖父母世代は、世代性に関する意識は高いが、モノを介するよりは精神面を重視する傾向がある。とはいえ、我が国の文化的背景との関連も示唆されるので、今後さらに検討する必要がある。

第3に、世代間で交換される資源は祖父母側と親側とではその評価が異なっていた。授受資源の多寡よりも資源に対してどのような感情を持つかが評価を決めているようであった。

以上に加えて、人生の統合という観点からの新たな知見が得られた。とりわけ祖母は、自分が親世代において実現できなかった発達課題を、子ども(娘)の育児を通して再体験し、子どもを通して祖母自身のアイデンティティを再体制化しようとしていることが明らかとなった。一定数の協力者が得られているので、質的なデータを今後量的に分析することも可能と考えられる。

研究成果の中心を成す雑誌掲載論文の要旨は次の通りである。それぞれが歩行開始期の祖父母の面接データの分析結果及び思春期の祖父母の面接データの分析結果に対応している。

Abstract (雑誌掲載論文)

The purpose of this study is as follows; Firstly, to investigate a relationship between aging and generativity through an analysis of conflict concerning parenting with mothers and daughters. Secondly, to investigate how the conflict affected mothers. Two grandmothers (69- and 63-years-old) with grandchildren, who live respectively in the Greater Tokyo Metropolitan area and the Tohoku Region. Semi-structured interviews were performed. One focus of the analysis was on the conflicts recounted by the grandmothers. The data was analyzed through five points of view, and then by using thematic analysis. Based on their own life-experiences, grandmothers supported their daughter's independence and careers. One grandmother opposed her husband's traditional views on gender roles. The other grandmother experienced conflict between her traditional parenting and her daughter's scientific contemporary method. Conflict between mothers and daughters concerning parenting indicated gaps in generation and culture. Issues of female independence, traditional gender roles, scientific parenting, and city versus rural sense of values surfaced within the process of the conflict management. Mothers in their sixties seem to find their identity by living through their daughters.

Abstract (雑誌掲載論文)

**Purpose:** This study's purpose is as follows; Firstly, how do elderly people with adolescent grandchildren find balance between their identities (the individual identity & the relational identity)?

Secondly, what is the relationship between identity and generativity?

**Background:** Three-generation households are decreasing in Japan, however grandparents live near their children and have frequent contact on account of the grandchildren. Entering their final years of their lives, elderly people will review their lives (Erikson, 1997). However, how will they systematize their identities as parents and as grandparents? Through the grandparents' narrative, a dimension of relational identity would be investigated (Jesselson, 1992; Okamoto, 1997, Sugimura, 1999).

**Methods:** Two grandparents (87-year-old man and 70-year-old woman) with adolescent grandchildren, who live in Tokyo participated. Semi-structured interviews were performed. Using a matrix, the transcribed protocols were classified through three periods (from childhood until marriage, parenthood, and grandparenthood) and through the point of view from individual and relational identities in each period. Each description was also analyzed using thematic analysis (Riessman, 2008) in the matrix.

**Conclusions:** The subject's point of view regarding their lives was dominated by their relational identity. In addition to a cultural factor, the influence of their theme (lone survivor in his family of the Firebombing of Tokyo, loss of her parents) in their life course until their marriages was apparent. Their theme as parents (loss of his daughter, entering her husband's family business) was integrated. As a result, when they entered grandparenthood, they were motivated to

pay attention to generativity. Finally, they referred to their identity as an individual in their twilight years.

#### <引用文献>

氏家達夫・高濱裕子、親子関係の生涯発達心理学、風間書房、2011

高濱裕子・渡辺利子・坂上裕子・高辻千恵・野澤祥子、歩行開始期における親子システムの変容プロセス：母親のもつ枠組みと子どもの反抗・自己主張との関係、発達心理学研究、19、2008

Erikson, E.H. The life cycle completed : A review. Norton & Company, 1989

水上喜美子・赤澤淳子・小林大祐、三世代同居意識と家規範意識に関する研究：世代と家族形態からの検討、仁愛大学研究紀要、8、2009

三輪聖子・内田照彦・木澤光子、次世代育成支援における祖父母の役割について：母親の子育て不安とのかかわり、岐阜女子短期大学紀要、35、2006

田畑治・星野和美・佐藤朗子・坪井さとみ・橋本剛・遠藤英俊、青年期における孫・祖父母関係評価尺度の作成、心理学研究、67、5、1996

丸島令子、成人の心理学：世代性と人格的成熟、ナカニシヤ出版、2009

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 2 件)

高濱 裕子、北村 琴美、佐々木 尚之、木村 文香、加齢と世代性：60代の母親と娘との育児をめぐる葛藤の分析、お茶の水女子大学子ども学研究紀要、査読有、2016、1-8

Takahama, Y., Kitamura, K., Sasaki, T., & Kimura, F. Relationship between identity and generativity of Japanese elderly people : Analysis of two cases: a

male in his 80s and a female in her 70s. North East Branch Bulletin, Peer review, 2015, 18-23

#### 〔学会発表〕(計 1 件)

Takahama, Y., Kitamura, K., Sasaki, T., & Kimura, F. Relationship between identity and generativity of Japanese elderly people : Analysis of two cases: a male in his 80s and a female in her 70s. The British Psychological Society, 7, May, 2015, Liverpool, UK

#### 〔図書〕(計 0 件)

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：()  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

#### 〔その他〕 ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

高濱 裕子 (TAKAHAMA, Yuko)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授  
研究者番号：10248734

##### (2) 研究分担者

なし ( )  
研究者番号：

##### (3) 連携研究者

北村 琴美 (KITAMURA, Kotomi)  
大阪人間科学大学・人間科学部・准教授  
研究者番号：80411718

木村 文香 (KIMURA, Fumika)  
江戸川大学・社会学部・講師  
研究者番号：70424083

佐々木 尚之 ( SASAKI ,Takayuki )  
大阪商業大学・総合経営学部・講師  
研究者番号：30534953